

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語
藤田 一郎、宮岡 洋三		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要】					
<p>先の「生理学実習Ⅰ」では、自分や同級生を対象に各種の生理機能を実験的に調べた。ここでは、動物を対象とした実験を加えて、神経や筋の生理学を実習する。最初に、動物実験の心得と計測機器の取り扱いを学ぶ。次いで、神経線維に発生する興奮（活動電位）や骨格筋の収縮、あるいは脊髄レベルでおこる反射について観察、記録する。</p> <p>実習の遂行に当たっては、「実習Ⅰ」の場合と同様に、「ウェブ閲覧」「文書作成」「表計算」「プレゼンテーション作成」といったIT技能が必要である。</p>					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「生理学実習」用のウェブサイトアクセスして、実習資料を入手する。</li> <li>2. 入手した実習資料を基に、実習遂行に必要な知識を整理する。必要ならば、図書館などで参考図書に当たり、資料を適宜加工する。</li> <li>3. 各実習の冒頭にある「小試験」によって、整理した知識の完成度を知る。</li> <li>4. 実習に参加して（【履修上の留意点】を参照）、「身体」を通しその内容を把握する。</li> <li>5. 実習内容をレポートとして簡潔にまとめ、「小試験」と「実験」から得た知識を体系化する。</li> <li>6. 発表スライドの作成を通して、プレゼンテーション技能を身に付ける。</li> <li>7. 実習内容の発表をおこない、討論を通じて、自分たちの知識の不備や問題点を知る。</li> <li>8. 必要に応じて、発表会での指摘などを踏まえて再度レポートを作成し、「講義」と「実習」で学習した内容を体系づけて把握する。</li> </ol>					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	実習ガイダンス 実習用動物（倫理面を含む）と機器（電気刺激装置、オシロスコープなど）の説明				実習（藤田、宮岡）
2	刺激と興奮-1 極興奮の法則				実習（藤田、宮岡）
2	刺激と興奮-1 興奮の閾値				実習（藤田、宮岡）
2	刺激と興奮-1 強さ-時間関係				実習（藤田、宮岡）
3	刺激と興奮-2 複合活動電位（峰分かれ）				実習（藤田、宮岡）
3	刺激と興奮-2 複合活動電位（伝導速度）				実習（藤田、宮岡）
3	刺激と興奮-2 複合活動電位（二相性・単相性波形）			発表-1	実習（藤田、宮岡）
4	骨格筋の収縮 加重と強縮				実習（藤田、宮岡）
4	骨格筋の収縮 収縮の閾値				実習（藤田、宮岡）
4	骨格筋の収縮 疲労曲線			発表-2	実習（藤田、宮岡）
5	脊髄反射 脊髄ショック				実習（藤田、宮岡）
5	脊髄反射 屈曲反射				実習（藤田、宮岡）
5	脊髄反射 各種（機械・化学・温度）刺激			発表-3	実習（藤田、宮岡）
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書		担当教員による「生理学サイト（URLは開講時に通知）」があるので、実習内容の予習・復習などに活用する。			
参考書		本学図書館には、生理学に関する各種書籍・ビデオが用意されているので、自主的に参考にして欲しい。			
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
<p>実習科目であるため「出席（参加）」を重視し、評価全体の50%を「出席（参加）」に当てる。残る50%の評価は、「小試験（毎回実施）、20%」と「レポート+発表会、30%」からなる。</p>		<p>「生理学実習」ウェブサイトには、先輩が作成・提出したレポートに対する大量のコメント集があるので、「共有財産」として末永く、積極的に参照して欲しい。</p> <p>なお、客観性と公平性の確保が困難な「実習態度」は評価対象としないが、明らかに他人の迷惑となっている場合には、退室を求めることがある。</p>			